

1. 対象

2年間の初期研修を終えた医師

2. 研修目的

1年次2年次に初期研修ローテートで、各科で得た知識と経験を基礎に、小児科疾患を専門的に研修する。また、他科医師、コメディカルスタッフと連携・協力しながら、個々の患者背景に配慮した最終到達目標にむけて患者・家族への指導を行なう能力、ならびに1、2年次研修医を指導する能力を身につける。また、他病院・診療所における小児科診療も経験し、地域医療における小児科診療の見識を広める。

3. GIO(一般目標)

身体診察、検査手技、画像診断、治療選択・実践を通じて小児科の専門的診療を行い、他科医からのコンサルテーションにも対応できる能力を身につける。

4. SBOs(行動目標)

1. 詳細な病歴聴取、身体診察を行ない、疾患、病態を列挙することができる(知識:想起・解釈)
2. 症候診断に基づき検査予定を計画できる(知識:問題解決、態度)
3. 基本的検査の手技(心エコー検査、心理検査(WISC-IIIなど))を実施できる(技能)
4. 以下の検査の適応を判断し、専門施設へ紹介できる(腎生検、心臓カテーテル検査、など)(知識:問題解決)
5. 検査(画像、血液、髄液、心エコー検査、心臓カテーテル検査など)の結果から鑑別診断を列挙できる(知識:解釈・問題解決)
6. 個々の患者の年齢および合併症に合わせた診療(新生児を含む)を計画できる(知識:解釈・問題解決)
7. 患者の社会的背景(職業、社会的立場、家族内の事情など)を考慮し、患者・家族への指導ができる(知識:問題解決、態度)
8. 初期1・2年次研修医を指導する(知識:問題解決、態度、技能)
9. 外来診察で診察所見の記載と検査計画を組み立てることができる(知識:問題解決、技能)
10. 乳児検診・予防接種を正しく実践できる(知識、態度、技能)
11. 小児救急医療を実践できる(態度、技能)
12. 地域における小児科診療を実践できる(態度、技能)

5. 研修方略

LS	方法	該当SBOs	場所	媒体	人的資源	時間	学習時間
1	入院研修 SGD	1,6	病棟	電子カルテ PACS	指導医 入院患者	2時間	毎日
2	病棟研修	1,2,6	病棟	OJT	指導医 入院患者 患者家族	毎日	毎日
3	外来研修	3,4,5	外来	OJT	指導医 外来患者	毎日	毎日
4	検査		検査室 (心エコー室) (心理検査室)	エコー WISC-III	指導医 入院患者 外来患者		
5	SGD		カンファレンス 室	電子カルテ PACS	指導医 研修医 看護師		

6	OJT		急患室	外来患者 家族	指導医		当直 日直
7	地域医療 OJT		関連病院	外来患者 家族	指導医	月 2-3 回	午後

6. 研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1~12	形成的	知識, 態度, 技能	指導医 看護師	症例経験中	自己評価 観察記録

7. 研修内容・週間予定

	月	火	水	木	金
午前	病棟ミーティング	抄読会 外来診療	病棟研修	外来研修	外来研修 研修医指導
午後	特殊外来 検査	病棟研修 アレルギー外来	病棟研修	病棟研修	病棟研修

後期研修医は主治医として入院患者を受け持ち、指導医とともに診察・検査・治療・処置・家族への説明等、全ての小児科診療を責任を持って担当する。

また、初期研修医の指導や各カンファレンスや、回診でのプレゼンテーションを自ら行い、回診では患者さんの病状および画像診断・治療法・合併症や予後の予測等についてのディスカッションの中心となって、研修を行う。

外来は指導医の指導のもと、診療を経験する。

救急医療では、指導医とともに初期研修医の指導にあたり、救急外来初期診断・治療から入院治療まで、章任を持って担当する。

地域医療研修は1ヶ月に2~3回午後研修関連病院で行う。

研修中は、各研修医ごとに担当指導医を割り当てるが、特殊外特殊外来(小児神経、腎・内分泌、小児循環器、心療小児科、アレルギー、乳児検診・予防接種)を研修するため、曜日毎に各専門医とともに診療する。

8. 2013 年度実績

入院患者延数	7,784
小児科	5,061
新生児科	2,723
当年度入院	1,197
小児科	892
新生児科	305

外来患者延数	12,043
小児科	10,425
新生児科	1,618
新患数	3,478
小児科	3,437
新生児科	41

9. 指導責任者, 指導医およびシニアレジデント

小児科

指導医名	役職	経験年数	主な資格など	専門分野	臨床研修指導医
丸山 秀和 (まるやまひでかず)	小児科長	17 年	日本小児科学会 医学博士 小児科認定医・専門医	小児科一般	○
矢野 潤 (やの じゅん)	小児科医 長	12 年	日本小児科学会 小児科専門医	小児科一般	

新生児科

指導医名	役職	経験年数	主な資格など	専門分野	臨床研修指導医
天沼 史孝 (あまぬまふみたか)	新生児科 長兼災害 医療科長	17年	日本小児科学会 小児科認定医・専門 医	小児科一般	○

シニアレジデント専門医コース:

シニアレジデント1年コース:

小児科・新生児科【専門医コース】



1. 対象

2年間の初期研修を終えた医師を対象

2. 研修目的

本コースは小児科専門医としての能力を身につけることを目標とする。初期研修終了後に進む5年間のコースであり、希望により、小児科専門医の受験も可能である。

1年次、2年次に初期研修ローテーションし、各科で得た知識と経験を基礎に、小児科疾患を専門的に診療する能力を身につける。また、他科医師、コメディカルスタッフと連携・協力しながら、個々の患者に配慮した最終到達目標にむけて患者・家族への指導を行なう能力、地域住民や医療関係者の教育、ならびに初期研修医および後期研修医を指導する能力を身につけ、日本小児科学会専門医を取得する。

3. GIO(一般目標)

小児科専門医としての高度な診療能力を身につけるために、新生児・小児の診察、検査手技、画像診断、治療の選択・実践に習熟し、学会発表や論文作成等の学術活動の研鑽、初期研修医および後期研修医を指導し、日本小児科学会専門医を取得できる能力と経験を身につける。

4. SBOs(行動目標)

1. 詳細な病歴聴取、身体診察を行ない、疾患、病態を列挙することができる(知識:想起・解釈)
2. 症候診断に基づき検査予定を計画できる(知識:問題解決、態度)
3. 基本的検査の手技(心エコー検査、心理検査(WISC-IIIなど))を実施できる(技能)
4. 以下の検査の適応を判断し、専門施設へ紹介できる(腎生検、心臓カテーテル検査、など)(知識:問題解決)
5. 検査(画像、血液、髄液、心エコー検査、心臓カテーテル検査など)の結果から鑑別診断を列挙できる(知識:解釈・問題解決)
6. 個々の患者の年齢および合併症に合わせた診療(新生児を含む)を計画できる(知識:解釈・問題解決)
7. 患者の社会的背景(職業、社会的立場、家族内の事情など)を考慮し、患者・家族への指導ができる(知識:問題解決、態度)
8. 初期1・2年次研修医を指導する(知識:問題解決、態度、技能)
9. 外来診察で診察所見の記載と検査計画を組み立てることができる(知識:問題解決、技能)
10. 乳児検診・予防接種を正しく実践できる(知識、態度、技能)
11. 小児救急医療を実践できる(態度、技能)
12. 地域における小児科診療を実践できる(態度、技能)
13. 学会で症例報告や臨床研究の成果を発表する。(問題解決、技能)
14. 医学論文を作製する。(問題解決、技能)

5. 研修方略

LS	方法	該当SBOs	場所	媒体	人的資源	時間	学習時間
1	入院研修 SGD	1, 6	病棟	電子カルテ PACS	指導医 入院患者	2時間	毎日
2	病棟研修	1, 2, 6	病棟	OJT	指導医 入院患者 患者家族	毎日	毎日
3	外来研修	3, 4, 5	外来	OJT	指導医 外来患者	毎日	毎日
4	検査		検査室 (心エコー室) (心理検査室)	エコー WISC-III	指導医 入院患者 外来患者		
5	SGD		カフアリス室	電子カルテ PACS	指導医 研修医 看護師		
6	OJT		急患室	外来患者 家族	指導医		当直 日直
7	地域医療 OJT		関連病院	外来患者 家族	指導医	月2-3回	午後

6. 研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1~12	形成的	知識, 態度, 技能	指導医 看護師	症例経験中	自己評価 観察記録

7. 研修内容・予定

	月	火	水	木	金
午前	病棟ミーティング	抄読会 外来診療	病棟研修	外来研修	外来研修 研修医指導
午後	特殊外来 検査	病棟研修 アレルギー-外来	病棟研修	病棟研修	病棟研修